

恵みと真理のニュース



2013年12月の二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



[証]

万個の口が私にあって

主の恵みを全て感謝し賛美するには足りません。

熱心に偶像崇拜をした祖母は私の親はもちろん私にも一節教会に通わせなかったです。とても強く反対して私は教会に通いたくても通えませんでした。そうするうちにイエス様を信じる家庭の旦那に出会って結婚してから恵みと真理教会に通っている叔妹に導かれついに信仰生活を始めました。しかし、私が願った通り教会に通うようになったにも関わらず一時期信仰が弱くて様々な言い訳をして主日礼拝に行かなかつた時が多かったです。新婚の1年が経ってないある日、旦那が突然倒れて昏睡状態になり病院に運ばれました。私は何も見えなくて暗くて何もできない状況になりました。その時に「あなたがたの中で病気の人は、教会の長老を招いて、主の名によってオリブ油を塗り、祈ってもらいなさい。信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起き上げてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主が赦してくださいます。(ヤコブの手紙 5:14, 15)」という御言葉が思い出して区域の勧士を通して急いで教会で旦那のために祈る事を求めました。教区伝道士と勧士がすぐ病院に来てくださり旦那の無事と回復のため祈ってくださいました。すると旦那の状態が良くなり一週ぶりに退院できました。退院後、精密な検査を受けて見たら神様は病気の元まできれいに治してくださいました。神様の恵みを体験した私の夫婦は共に神様に感謝し主日礼拝を熱心に捧げ平日礼拝も捧げ教会の奉仕もするようになりました。このように熱心に信じ従順する私達に神様は多くの祝福を与えてくださって悩みなく平安な生活をするようにしてくださいました。

全ての事が神様の摂理と助けであることを感じ祈りして答えられる楽しみも体験しながら生きました。そうするうちに IMF の時旦那は突然職場を失ってその後就職がなかなかできませんでした。私達の夫婦は三日間午前断食をしながら神様を仰ぎ祈りました。すると最後の日に奇跡的に旦那が安定的な職場で就職するようになりました。それだけでなく長い期間不況で

経済的にみんなが大変な時にも神様は私達に安定した生活と平安を与えてくださいました。私は当時働いていたので礼拝がある日には休まずに午前教会に行ってから午後職場に行く生活をしました。そんな私に教会で児童区域を任せ週末には村の子供達を集めて御言葉を教え礼拝を導き主日には幼稚部の教師で熱心に奉仕しました。忙しい仕事の中で体は疲れたとしても礼拝し奉仕する神聖な楽しみを味わう事ができて生活には活力と喜びが溢れました。二番目の子供が生まれる頃、空気が悪い工場が多い所で住んでいたから空気が良い所に引越ししたい願いができました。「わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたを知らない隠された大いなることを告げ知らせる。」(エレミヤ 33:3) 御言葉通りに一つになって祈ると神様は私の祈りに答えてくださり住んでいたアパートを時世より高い値段で売り渡ししてお金を借りなくて空気が良い新しい都市で引越しする事ができました。二番目の子を産み育ちながら安定していたある日、旦那が今まで通っていた職場をやめて衣類関連の事業を始めました。事業が基盤を取ってますますよくなると思つたらむしろ難しくなりました。事業が苦難になり資金の圧迫で耐えなくてやさしかった旦那の心がどんどん剛腹になりました。そして、旦那は教会で時間をあまりにも無駄に使うと私を迫害したり神様を頼らなく自分の知恵と力で難局を切り抜けました。そして思い通りにならなくて信仰は衰退して否定的な人になり退勤して帰って来た家族に怒る日が多くなりました。ついて子供たちと私は旦那が帰ってくる時間になると心配と怖れる日が多かったです。それで私と子供たちは旦那が帰って来る前集まって手を握り旦那と事業と家族のため祈りました。共に祈りながら子供達は導いてくださる神様の恵みを体験してから私の信仰の心強い協力者になってくれました。経済的な苦しみと精神的に倒れそうでしたが神様に委ね願う信仰で勝つことができました。恵みを求める心になり礼拝に参加するたびに御言葉を通して神様に慰められ力を得て新しい希望で満たされ大変な生活の中でも心は聖霊満ちて神様はいつも私と共にいらっしやることを深く感じました。貧しくて病弱くて苦しみ

ある人、イエス様を信じない不信の魂をもっと哀れんで愛するようになりました。物質的に問題なく悩みない平安な時よりもっと大胆に人々に会って福音を伝えました。私と子供たちの祈りと相変わらず神様の愛を通して旦那が少しずつ変化されました。以前の信仰を回復しもっと神様を畏れ頼り愛する人生に変化されました。そして按手執事の職分を受け聖歌隊で献身奉仕する生活をするまで至りました。事業も長い不況の中でも神様の助けで少しずつよくなっていて私たちの夫婦は神様に感謝しています。私の事業場は神様がくださった企業で神様の国と私達の教会の目標のため用いられ多くの恵みを与えてくださることを信じます。神様は実家の親の救いのため15年間続けて祈った事にも答えてくださいました。神様の時になり親もうちの教会に出て決意して熱心に礼拝中心の生活をしています。そして続けて実家の家族が完全に福音化されるように導いてくださり妹達を伝道の働き人として立ててくださいました。「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。」(フィリピ信徒への手紙 2:13) 「二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」(使徒言行録 16:31) ハレルヤ! 限りない神様の恵みを考えると万個の口が私にあっても全て感謝し賛美するには足りないです。神様に受けた愛も字では表現できないくらいです。以前には物質の祝福、名誉、この世の自慢することを大事に思ってたが今はイエス様を愛し捧げ告白知らせることを一番思いことと思えるようになりました。様々な苦難を通して多くのことを悟らせてくださり信仰をもっと与えてくださった神様、時により万時が益となるように弱い私にも教会と子供を任せ献身する尊い使命まで与えてくださり、担えられるように助けてくださる神様に感謝し賛美と栄光を捧げます。私の家族が天国に行く日まで信仰を堅く守って下さる主だけを愛し前に立って福音を伝えいっどこでも主のことに用いられる事を願います。ハレルヤ!



[信仰コラム]

真(しん)に永遠(えいえん)な幸(しあわせ)

「働きはなくても、不信心な者を義とするかたを信じる人は、その信仰が義と認められるのである。ダビデもまた、行いがなくても神に義と認められた人の幸福について、次のように言っている、「不法をゆるさる、罪をおおわれた人たちは、／＼さいわいである。罪を主に認められない人は、さいわいである」。…」(ローマの信徒への手紙 4:6-8)

人(ひと)がこの世(よ)なる間(あいだ)はそれなりに幸(しあわせ)に生(い)きて死(し)んだ後(あと)に永遠(えいえん)の刑罰(けいばつ)に置(お)かれて負(ま)けたら彼(かれ)の一生(いっしょう)の幸(しあわせ)は意味(いみ)のないものとなってしまいます。地獄(じごく)を否定(ひてい)し、美化(びか)することを言(い)うのではなく、その所(ところ)に行(い)かないように対策(たいさく)を講(こう)じる方(かた)を選択(せんたく)しなければなりません。これは難(むず)かしいです。誰(だれ)でもイエス・キリストを信(しん)じさえすれば罪(つみ)赦免(しゃめん)されて義(ぎ)になって地獄(じごく)を避(さ)け(ざい)かに処(しょ)する審判(しんぱん)を完全(かんぜん)に免(まぬ)かされるようになります。、イエス・キリストを信(しん)じない限(かぎ)り、真(しん)の幸福(こうふく)はありませぬ。、イエス・キリストを信(しん)じていると幸(しあわせ)な人(ひと)になる真(しん)に永遠(えいえん)な理由(りゆう)を持(も)つようになります。罪(つみ)下賜(か)し(か)されて義(ぎ)になって刑罰(けいばつ)審判(しんぱん)を免(まぬ)かされるものは基本(きほん)です。ほかも幸(しあわせ)にする多(おほ)くの理由(りゆう)が許可(きよ)か(きよ)されて約束(やくそく)されました。神(かみ)様(さま)の子供(こども)となって天国(てんごく)を企(き)き(き)ょう)に受(う)けた者(もの)がなります。将来(しょうらい)、イエスが再臨(さいりん)することによって復活(ふっかつ)して変化(へんか)した体(からだ)を受(う)けることになるでしょう。また祈禱(きとう)の回答(かいとう)を受(う)けることとなります。すべての事(こと)が合力(ごうりき)して善(な)を成(な)すこととなることを経験(けいけん)することになります。信(しん)じてる者(しや)による様々(さまざま)な標的(ひょうてき)を体験(たいけん)することになります。聖霊(せいれい)様(さま)の教(おし)えと導(う)けを受(う)けて生(い)きるようになります。そして聖霊(せいれい)がくれる権能(けんのう)を受(う)けて福音(ふくいん)を伝(つた)え、注意(ちゆう

い)の仕事(しごと)に取(と)り組(く)むので将来(しょうらい)主(さま)から賞賛(しょうさん)と賞(しょう)を受(う)けるようになります。むしろはイエス・キリストにより感(かん)する幸(しあわせ)な理由(りゆう)を持(も)つため、幸(しあわせ)な人(ひと)らしく生(い)きなればなりません。ところが、実像(じつぞう)は幸(しあわせ)を十分(じゅうぶん)に享受(きょうじゆ)できずに住(す)む信徒(いはい)がたくさんあります。第(だい)一(いち)、比較(ひかく)劣等(れつとう)感(かん)を撃退(げきたい)しなければなりません。他(ほか)の人(ひと)と比較(ひかく)すれば、比較(ひかく)劣等(れつとう)感(かん)を持(も)つようになつて比較(ひかく)優越(ゆうえつ)感(かん)を持(も)つようになります。優越(ゆうえつ)感(かん)は傲慢(ごうまん)な精神(せいしん)を発動(はつどう)させて他(ほか)の人(ひと)をなめて無視(むし)する行動(こうどう)をするようになります。ところが傲慢(ごうまん)を生(なま)む比較(ひかく)優越(ゆうえつ)感(かん)以上(いじょう)に悪(わる)いことには比較(ひかく)劣等(れつとう)感(かん)です。ガインは比較(ひかく)劣等(れつとう)感(かん)によって猜忌(さいし)と嫉妬(しつと)心(しん)が頂点(ちやうてん)に達(たつ)して殺(おと)うとアベルを野(の)に呼(よ)び出(だ)して殺(ころ)しました。神(かみ)様(さま)のタラントを比喩(ひゆ)に出(で)限(かぎ)り、タラントを受(う)け取(と)った従(じゆ)卒(そ)は五(ご)タラントと二(に)タラントを受(う)け取(と)った仲間(なかつ)間(ま)と比較(ひかく)して、激(げ)しい劣等(れつとう)感(かん)を持(も)つようになりました。彼(かれ)は主人(しゆじん)から凶悪(きょうあく)で愈(なま)けた従(じゆ)卒(そ)と叱責(しっせき)を受(う)けることになり、持(も)つたのも奪(うば)われて外(そと)の暗(くら)いところで出(だ)して追(お)い出(だ)されました。神(かみ)様(さま)が建(た)てた万物(ばんぶつ)は非常(ひじょう)に多様(たよう)です。このような多様(たよう)性(せい)は、神(かみ)様(さま)の腕前(うでまえ)であり、神(かみ)様(さま)の意味(いみ)です。ですので、私(わたくし)たちは知能(ちのう)と才能(さいのう)と容姿(ようし)と能力(のうりょく)と趣向(しゅこう)が異(こと)なっているのが神(かみ)様(さま)の腕前(うでまえ)であり、神(かみ)様(さま)の意志(いし)と摂理(せつり)ということを知(さ)って相互(そうご)尊重(そんじゆう)しなければなりません。もちろん競争(きやうじゆう)社会(しゃかい)に生(い)きていく以上(いじょう)、比較(ひかく)をし

がちだが、その比較(ひかく)が自己(じこ)発展(はつてん)に向(む)けた努力(どりょく)の同期(どうき)になるようにしなければなりません。そして、自分(じぶん)と異(こと)なる点(てん)を確認(かくにん)して認定(にんてい)して調和(ちやうわ)していくべきです。第(だい)二(に)、孤独(こどく)感(かん)を撃退(げきたい)しなければなりません。神(かみ)がサマリアの「スガ」という村(むら)に達(たつ)して井戸(いど)にお聞(き)きになった時(とき)に、サマリア女(おんな)がひとり水(みず)を汲(く)みに来(き)ました。この女性(じよせい)は5回(かい)も結婚(けっこん)と離婚(りこん)を重(かさ)ねた数奇(すうき)な人生(じんせい)を生(い)きました。女性(じよせい)はイエス様(さま)としばらくの間(あいだ)の対話(たいわ)を通(つ)じてイエスがメシアー(メシア)であることをしるようになり完全(かんぜん)に変化(へんか)されました。水(みず)がめを放擲(ほうてき)、町(まち)に駆(か)けつけて自身(じしん)がメシアー(メシア)に会(あ)ったと伝(つ)たえ、人々(ひとびと)を連(つ)れて、イエス様(さま)とも来(き)ました。村(むら)の人(ひと)たちは女(おんな)の変化(へんか)した姿(すがた)を見(み)ました。孤独(こどく)にとらわれていた女性(じよせい)が明(あか)るくて活気(かっき)に満(み)ちた姿(すがた)に変化(へんか)した姿(すがた)を見(み)てすべてイエス様(さま)とも出(で)ました。自分(じぶん)が一番(いちばん)不幸(ふこう)とここは人(ひと)がいます。もしくは自分(じぶん)は幸(しあわせ)な時(とき)より不幸(ふこう)な時(とき)がもっと多(おほ)いと考(かん)がえる人(ひと)がいます。もしくは深(ふか)く修養(しゅうよう)し、自足(じそく)しながら心(こころ)に平静(へいせい)を失(う)しないので幸(しあわせ)を享受(きょうじゆ)する人(ひと)がいます。もしくはほかの人(ひと)と比較(ひかく)して自分(じぶん)は優越(ゆうえつ)感(かん)と思(おも)う時(とき)幸(しあわせ)感(かん)を感(かん)じる人(ひと)がいます。真(しん)の幸福(こうふく)とは永遠(えいえん)な幸(しあわせ)に起因(きいん)したものです。イエス・キリストを信(しん)じる人(ひと)は永遠(えいえん)の幸福(こうふく)者(しや)であり、真(しん)の幸福(こうふく)者(しや)です。。。だから、この世(よ)の中(なか)に滞(たいざい)する間(あいだ)、比較(ひかく)劣等(れつとう)感(かん)や孤独(こどく)感(かん)に陥(おちい)る理由(りゆう)がありません。「**「**テヨンモク牧師先生の信仰コラム「緑の牧場、清い川」本の語り中」

私とキリストの関係



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

どんな人が質問するのを “あなたはイエスキリストが分かりますか？ 分かったらどんなご関係ですか？” と言ったらあなたはどんなに答えますか？ この質問に対して今日の本文をその返事することができる人は真実で幸いである人です。本文にこんなに記録されました。“**生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。ガラテヤ人への手紙2：20**” 。それでは本文を詳しくよく見ます。

先に、“私がキリストとともに十字架にくぎつけられた” という言葉をよく見ます。

キリストを信じる前と信じた後の差が何ですか？ 教会に出席しないことと出席する差ですか？ 聖書を読まないことと読む差ですか？ そんな差があることそれは根本的な差ではないです。“**私がイエスキリストとともに十字架にくぎつけられた**”。これが一番大きくて確かな差です。この言葉の意味はこのようです。世の中すべての人に決定的な影響を及ぼす一人がいます。初めの人アダムです。すべての人はアダムの子孫です。アダムの子孫はアダムから命を受け継ぐことと同時にアダムの犯罪によった罪ある本性も受け継ぎます。人間において罪の問題は人間の行為にあるのではなく血統の問題で生まれに係ったのです。人が罪を犯すから罪人であるのみならずアダムの血統で生まれたから罪人です。これは本質上の罪です。これを原罪と呼びます。本質上の罪は行為よりもっとも深いであります。すべての人が罪人になったことは神様に罪を犯したアダムから出生したからです。ローマ人への手紙、5章12節に“**このようなわけで、ひとりの人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいつてきたように、こうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類にはいり込んだのである。**” と言いました。

これによって絶望に処した人生たちに驚くべきで嬉しい消息があります。ローマ人への手紙5章にこんなに記録されました。“**このようなわけで、ひとりの罪過によってすべての人が罪に定められたように、ひとりの義なる行為によって、いのちを得させる義がすべての人に及ぶのである。すなわち、ひとりの人の不従順によって、多くの人が罪人とされたと同じように、ひとりの従順によって、多くの人が義人とされるのである。**” (ローマ人への手紙5:18,19)。

アダムにあってすべての人が罪人になったし罪によって死亡が来た。結局永遠な滅亡に処するようになる絶望的な運命に落ちてしまいました。しかし神様の恵みがイエスキリスト内に現われました。

これはイエスキリスト中で罪のあがないを受けて義のあるようになって永生を得ることになる驚くべきな恵みです。アダムの犯罪によってその子孫たちが罪人になって滅亡するようになる代表者の原理が救いを得るようになる原理でも適用されました。コリント人への**第一の手紙15章22節にアダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。**” しました。これが解決策です。アダムにあった人がイエスキリストにある位置を移すのです。アダムにあって私たちがキリストにあるようになる道はただ一つしかありません。十字架にくぎつけられて死んだナザレイエスキリストを救世主に信じるのです。キリストを信じる人はキリストが十字架にくぎつけられる時イエスキリストの内にあったことと見なされます。そのため“**私がイエスキリストとともに十字架にくぎつけられた**” と言えるようになるのです。

“私がイエスキリストとともに十字架にくぎつけられた” と告白する人には聖書は次のように驚くべきでありがたい宣言を言っています。“**だからもうイエスキリストにある者には決して定罪することがないから**” (ローマ人への手紙8:1) “**こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。**” と告白する人は律法と罪と死亡の法で解放された感激と喜びで充満する生活ができます。

次は、“**これからは私が 生きているのではないただ私の内にキリストが生きているのだから**” という言葉をよく見ます。

クリスチャンはイエスキリストとともに 十字架にくぎつけられました。“**十字架にくぎつけられたのに生きている**”。この神秘的な命に対して説明するのをキリストが暮すことだと形容しました。イエスキリストを信じれば本質上の罪人である人がイエスキリストが十字架にくぎつけられた時その中で一緒に十字架にくぎつけられて死んだことと見なされます。そしてまた一方では復活したイエスキリストが聖霊でいらっしゃってその人のうちにいらっしゃいます。そして新しい命を授けます。この新しい命は永生です。

“**ただ私のうちにイエスキリストが生きているの**” を深く認識するようになれば生活にさまざまな変化が従うようになります。聖なる矜持を持つようになります。万王の王であるイエスキリストが私のうちに入って来ていらっしゃるからその栄え栄えしいことは何でも比べることができません。またキリストを中心に生きて行くようになります。“**ただ私の内にキリストが生きているから。**” その告白した使徒パウロはコリントの二書で記録するのを “**そういうわけだから、肉体を宿としているにしても、それから離れているにしても、ただ主に喜ばれる者となるのが、心からの願いである。**” (コリント人への第二の手紙5:9) しました。ピリピでは “**そこで、わたしが切実な思いで待ち望むことは、わたしが、どんなことがあっても恥じることなく、かえって、いつものように今も、大胆に語ることによって、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられることである。わたしにとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である。**” (ピリピ人への手紙1:20,21) で記録しました。このように “**神様を嬉しくするため**” と “**神様が尊貴になるようにするため**” という目標を持つようになります。

また “**ただ私の内にイエスキリストが生きているの**” を認識する人はキリストが主張する生活をするようになります。それで神様に問うのを楽しみます。“**神様、私が何をしましょうか?**” と問います。そして聖徒のために奉事して福音を熱心に伝えて礼拝するのを楽しんで神様に差し上げるのを楽しむなどキリストが喜ぶ事をするようになります。私が生きているのではなく私のうちにイエスキリストが生きているという言葉はイエス様が主張する生を暮すことを言うのです。これからは私が中心ではなく神様が中心になる生を暮すのです。

“**日曜日にだけ**” 私の内にキリストが生きているのだと言わなかったです。“**今は**” という言葉には “**いつも、常に**” という意味が内包されています。聖徒の皆さんは “**これからは私が生きているのではないです。キリストが私の内に生きています。**” という認識を徹底的に持って生きて行くように願います。

終りに、“**もう私が肉体の内に生きていることは私を愛してわたしのためにご自身をささげられた神様の御子を信じる信仰で生きていることだから**” という言葉をよく見ます。

クリスチャンは “**信仰の中で**” 生きている人です。感情と状況に支配されなくて信仰で生きて行きます。この信仰はどんな信仰ですか？ “**私を愛してわたしのためにご自身をささげられた神様の御子を信じる**” 信仰だと言いました。私を愛した神様の御子に対する信仰です。この愛は限りない愛です。差別ない愛です。変わらない愛です。ふんだんな愛です。切ることができない愛です。永遠な愛です。私たちの理解を超越する愛です。クリスチャンの信仰は自分の暗示と訓練による信念ではないです。キリストの愛に根拠した信仰です。“**私を愛してわたしのためにご自身をささげられた神様の御子を信じる信仰で暮す。**” これらの意味はこのようです。イエスキリストが私のためにおこなって成したことを信じる信仰で暮すという意味です。イエスキリストが十字架の上で死ぬ前に “**すべてが成した。**” としました。あがないの使役を果したので。またキリストが私の祈りを聞いて手伝ってくれることを信じる信仰で暮すという意味です。またキリストが約束した言葉は残らずすべてが成就することを信じる信仰で暮すという意味です。イエス様は私たちが入る父の家に関してそして再臨と係わって恵まれた約束たちをくださいました。

このような信仰で生きて行けば否定的考えと状況を充分に乗り越えるようになります。“**私を愛してわたしのためにご自身をささげられた神様の御子**” イエスキリストを信じる信仰で暮せばさびしくなくて挫折と絶望に抜けないし恐ろしさに捕らわれないでいつも所望と平安と喜びを持って生きて行くようになります。

“**あなたはイエスキリストが分かりますか？ 分かったらどんなご関係ですか?**” という質問に対して答えるのがなければ甚だしく可哀相な人です。“**私はイエスキリストをよく分かります。私とイエスキリストの関係はこのようです。私がイエスキリストとともに十字架にくぎつけられたので私が生きているのではなくただキリストが私の内に生きているのです。もう私が肉体のうちに生きていることは私を愛してわたしのためにご自身をささげられた神様の御子を信じる信仰で暮すのです。**” 聖徒の皆さんは躊躇なしにこんなに答えることができるように願います。